

浜松観光ボランティアガイドの会

令和6年度定期総会と特別講演 開催

令和6年度の定期総会が4月22日(月)、浜松市地域情報センターにおいて開催されました。来賓に浜松市副市長 長田繁喜様、浜松市産業部観光・ブランド振興担当部長 齊田 一朗様、公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー常務理事 金子哲也様、遠鉄アシスト(株)代表取締役社長 矢田中央生様、浜松城館長 中嶋勇様、浜松まつり会館館長 中村敏幸様をお迎えし、会員 131名のうち114名が出席しました。



鈴木前会長の挨拶

会の冒頭、会長からは昨年度のNHK大河ドラマ「どうする家康」での浜松観光ボランティアガイドの会員の活躍と、無事任期を終えられたことが報告されました。

次に来賓の浜松市副市長長田繁喜様より「今年は『浜名湖花博2024』が開催されており、ボランティアガイドの皆さまには、昨年同様にご協力をお願いしたい」とごあいさつをいただきました。

議事においては、大見美保子さんが女性初の会長に選ばれました。続いて10年勤続表彰では17期大隅康夫さん、春日康治さん、20年勤続表彰



浜松市 長田副市長



澤井さん、和久田さん

では7期生澤井浩司さん、和久田久恵さんの各2名に表彰状と記念品を贈与されました。最後に新入会員26期19名の皆さんの紹介があり、無事総会が終了しました。



大隅さん、春日さん

特別講演「どうする家康」講師 演出家 川上剛氏
総会終了後、NHK大河ドラマ「どうする家康」で演出を担当された川上剛さんの講演を聴くことができました。



NHK演出家 川上剛氏

「どうする家康」の演出では、演出家が数人いて担当する放送回が決められていたそうです。

ドラマ演出は、まずは取材し、脚本を練り映像にし、そして役者・スタッフを「動かす」ことにあると話されました。実際に使われた台本の一文を読み上げ「これを渡されて、どう映像表現にしていくのかというのが演出家の仕事の始まり」とのこと。そこから放送に間に合うようにいかに取材して、作りこんでいくのかを話されました。特に、川上さんが担当された忍者が活躍する放送回では、エンターテインメントとリアリティさをどのように両立させるかについて、苦勞されたそうです。

そして、日本全国飛び回って、多くの方から話を聞いて、とにかくひたすら取材を繰り返し、そこからこんなシーンも取り上げたい、こんな小道具も使ってみたいと、台本を超えたアイデアが浮んでくるのだそうです。関係各所の考証・指導の先生方に確認、許可をもらって、史実とエンタメの間のギリギリで一番面白いものを作り上げることに心血を注がれたことが分かりました。今回は川上さんがご自身で作った資料を使い、内容の濃いお話をされたので、とても楽しく聞くことができました。会員からも再度「どうする家康」を見たいといった声が聞かれました。



講演の風景

広報部 久保田絢子(中ブロック)

令和6年度総会 新会長からの挨拶

令和6年度の総会にて5代目会長に任命されました14期入会の大見でございます。会員数131名、本年度には創立25周年を迎える歴史ある会の運営に当たる責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は運営委員会の書記として、副会長として当会の運営と変遷を間近に見てまいりました。その間には、犀ヶ崖資料館の管理業務の引き受け、新型コロナウイルス禍でのガイド活動の縮小、浜松城公園駐車場の有料化に伴う当番用駐車場の確保、そして「おんな城主直虎」と「どうする家康」の2本の大河ドラマ放映時の特別体制の実施など様々な課題に直面しました。その対応に当たった歴代の会長の指導力、実行力を思いますと私は遠く及ばないと不安になりますが、一方で課題対応のために運営委員会では真摯で前向きな議論が繰り返されたことや会員の皆さまのご協力があったことに思い至り心強く感じております。今後も様々な課題が生じることでしょうが、その折にはブロック会、専門部会などを通じて皆さまの声を運営委員会にお寄せいただければと思います。

さて、当会は本年度も浜松城をはじめとする4拠点での定常活動の他、出前講座、同行ガイド、各種イベントの開催などの活動や会員向けの研修などを行ってまいります。可能な限り活動や研修に参加して、ガイドスキルのアップと知識の向上に努めましょう。「お客さまに私たちのガイドを楽しんでいただくのと同時に、私たちがガイドを楽しむ」ことを大切にしてください。自分が楽しいからガイドをするのです。楽しんでいる私たちの心がお客さまに伝わります。「してあげるのではなくさせていただく」という謙虚な心を忘れないようにしましょう。

最後に、皆さまの当会での活動が充実した楽しいものになりますよう、微力ではございますが、会の運営を精一杯行っていく所存です。どうかご協力をお願いいたします。



大見美保子 新会長

会長 大見美保子

会員の交流広場

浜名湖花博 2024 ガーデンパークの見どころ

2004年に浜名湖花博が開催されてから、早くも20年が経ちました。この度、花博20周年を記念して、浜名湖花博2024が開催されているのをご存じでしょうか？



浜名湖フラワーパレット花壇

会場は、連日大勢のお客さまで賑わっていますが、会期は6月2日(日)までです。間に合う方は足を運んでいただくと幸いです。さて、会場の主な見どころを御紹介します。まずお薦めしたいのは東海エリアで、初めての開催となる没入体験型デジタルアートミュージアム「イマーシブミュージアム」です。その他、静岡文化芸術大学や静岡大学の学生さんらによるデジタルミライ館も幅広い年齢層に好評です。もちろん花緑も見どころ豊富です。静岡県は全国第4位の花木生産県で、県内で生産された花をふんだんに使っており、多くの庭園を新設して、大幅リニューアルしました。5月にはヒマワリを中心とした広大な花畑、新感覚の

私は、現在、県の浜名湖花博20周年記念事業推進室の花緑担当職員として働いています。浜名湖花博2024 ガーデンパーク

生態展示型ローズガーデンなどが見頃を迎えます。また、花の都しずおか花展示という屋内展示コーナーでは高品質な県産花木の数々をご覧いただくことができます。そして忘れてはならないのが、ボランティアの方々の存在です。合計約350名のボランティアの方々が会場サービスや植物維持管理など幅広い場面で活動されています。一日の活動人数は約60名で、毎日のように来てくださる方もいます。56ヘクタール、東京ドーム約13個分の広大な会場を管理するために、ボランティアの方々の存在は欠かせません。会場にお越しただけであれば青色ビブスを着たボランティアの方にきっと出会えるはずです。ちなみに私は白いウィンドブレーカー



会場の様子

を着ています。会場にお越しの際は、ぜひ声をかけていただけますと幸いです。会期も残り短いですが、改めて皆さまのお越しをお待ちしております。

東ブロック 鈴木智子

令和5年度新人養成講座「現地研修」

【第9回・4月1日(月)】浜松駅周辺を歩いたよ

連絡いただいていた例年通り9時半に、駅構内のインフォメーションセンターに行くといふけれど、エイプリルフールのせいかわれもいませんでした。ありがたいことに、浜松ボランティアガイドの会の制服は



シヨパンの丘での記念撮影

蛍光緑のため、目立ちます。遠鉄百貨店前で歩いている団体を発見、いっしょに歩くことができました。聞けば今年30分早くに、南

口郵便ポスト前に集合。スタート前にインフォメーションセンターの方から、「今年は花博があるので、色々説明できれば、協力お願いします」とのあいさつがあったそうです。今回は、新人17名、研修部8名の参加で3班に分かれて歩いていました。観光ボランティアガイドの駅周辺の確認ポイントは67カ所もあります。各班で説明のポイント時間にばらつきが出たため、シヨパンの丘にて、全員の集合写真が撮れず申し訳なかったです。この日は20℃と暑く、約2時間の現地研修お疲れ様でした。コインロッカーから公衆電話の場所までしっかり確認できました。インフォメーションセンター担当のときに役立ててください。

広報部 久保田絢子 (中ブロック)

【第10回・4月15日(月)】浜松まつり会館と命山

26期生「新人養成講座」の研修が、17名の新人の方を対象に「浜松まつり会館」にて、行われました。同館長の中村敏幸様から「ボランティアガイドの方々に毎週ボランティア活動を通して、館内での説明等にご尽力いただきありがとうございます。浜松まつり開催まで2週間となり、当日は皆さまのご協力をよろしくお願いいたします」とごあいさつをいただきました。



凧糸の製造工程の見学

今年、浜松まつりは、5年ぶりの制限なしの通常開催となり、凧揚げの参加町内も過去最高の172町、御殿屋台も85台参加することです。その後、2班に分かれて、当番の控室である事務所を確認してから、凧糸の製造室、大凧の展示コーナーや御殿屋台の展示室で説明を受けました。

凧糸は麻製で凧揚げ合戦のとき、不公平が生じないように同じ規格で作られているとの事。凧糸

最初に、ビデオコーナーで浜松まつりの映像を視聴した後、まつりを運営する組織について説明を受けました。

が切れた場合にその糸をつなぐ技術は、町内毎に伝承されていて門外不出の技術であることを聞き、後世への技術伝承が重要であると痛感しました。また麻は生長が早く、真っ直ぐに伸びるため、子供の健やかな成長を願い、初子の産着に使われているとの説明もありました。

御殿屋台コーナーには、木曾檜や檜を使用して、釘一本使わない木組みの立派な御殿屋台が展示されていました。また、御殿屋台は、もともと凧を運ぶ目的で始まったとのこと。

約1時間、館内を見学した後、外に出て、命山に移動しました。この命山は海拔13mで頂上には、1,000人(1m²/ひとり)の避難者を収容できる場所があります。地震・津波などが発生したときには、まつり会館のスタッフの方と協力して、お客さまを誘導するようにとの説明を受けましたが、この高さで大丈夫か少々心配になりました。



命山の階段での記念撮影

広報部 長松谷晃徳 (東ブロック)

～訂正とおわび～

本誌4月号261号1ページ目「第8回・3月11日(月)」の研修報告の中に誤りがありましたので訂正しておわびいたします。

誤：井伊3人衆の内の気賀近藤氏の金指陣屋門を移築したといわれている総門や江戸時代に建立した山門

正：井伊谷三人衆の一人近藤康用に続く近藤家の主家金指近藤家の陣屋門を移築したといわれる総門や江戸時代に建立された赤門

※参考：神谷昌志著 廣澤山普濟寺六百年史など

新入会員の入会動機



私が「浜松観光ボランティアガイドの会」を知るきっかけは、富塚協働センターまつりで置いてあった「家康の散歩道」です。浜松を題材に絵を描こうと資料を探していて、その横にあった新人養成講座のチラシを見ていた時、「ぜひ受講して入会してほしい」と勧誘されたからです。

浜松を知るためには、浜松をよく知っている方に話を聞くのが一番早いと思い、ガイドは未経験、体力・気力は衰えてきている自分ですが、よろしくお付き合い願います。

西ブロック 伊賀春雄



退職して、さあ何をやろう！と考えていた時、当会のことを知りホームページを開いてみましたが、残念ながら2022年度の募集は既に終了していました。

どうする家康大河ドラマ館のボランティアに参加している間、当会の先輩たちに色々お話を伺い、子どものころは浜松城周辺や犀ヶ崖、天林寺の山で遊んでいて、現在は三方原に居住しているのに、歴史についてはよく知らないと実感し、もっと勉強したいと思い、今回入会することにしました。

体力には全く自信がありませんが、無理せず楽しんで活動できたらと思っていますので、よろしく願います。

北ブロック 梅谷恵子



みなさん、初めまして！今年の11月に夫の転勤で島根県出雲市から浜松に越してきました。引っ越し作業も落ち着き、どこか浜松市内の観光地でも巡りたいなあと思っていたところ、たまたまボランティアガイドの募集を発見。もともと旅行が好きで、歴史にも興味があったので、ガイドになれば色々なことを知れるはず！と思い、勇気を出して応募してみました。

浜松に越してきてまだ間もない新参者ですが、だからこそ観光者の目線に近い立場でのご案内ができるのではないかと考えています。浜松の魅力をたくさん伝えられるように頑張ります！よろしく願います！

南ブロック 岸本千珠加

4月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

7日 日	池田様	10名
7日 日	春虎会	14名
18日 木	水野様	6名
26日 金	酒井様	5名

《浜松まつり会館》

団体ガイド活動はありません

《犀ヶ崖資料館》

団体ガイド活動はありません

《同行ガイド》

13日 土 本多様

4名

はままつ案内人会報 262号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中央区元城町 100-2 (浜松城内)
TEL 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地